

市長への 手紙

交通事故はもっと減らせる



前回、紹介した「交通事故被害者」の実例には、市民の皆さんからの大きな反響がありました。その中から、自身の事故体験をつづった東区在住の市民からの手紙を紹介します(誌面の都合で内容を一部編集しています)。

交通事故を起こしてしまったという話は、身近なところでもまれに聞きます。以前のわたしだったら、その人には「運が悪かったね」と話したと思います。しかし、自分自身が事故を起こしてからは、「交通事故はなくすことができる」と思うようになりました。

ある日、わたしは比較的大きな交差点に差しかかる、左折専用レーンを走行していました。信号は青。車は流れていたため、左折のために若干減速し、前の車に続いてわたしも左折をしようとしてハンドルを回し始めた時です。前の車のブレーキランプが光ったので、あわててブレーキを踏みましたが間に合わず、追突してしまいました。前の車は横断する人に気付いてブレーキをかけたとのことでした。

この事故を振り返ると、左折の際、わたしは

ただ前の車に続いていくことしか考えていませんでした。しかし、交差点なので横断する人や自転車がいないことは不思議ではありません。ですから、前の車も急に止まるかもしれないと思えば、もっと減速したり、ブレーキの準備をしたりして、追突することなく停止できたいでしょう。このように事故は運が悪くとか、偶然起こるものではなく、どこかに原因があるので、だから交通事故はもっと減らすことができます。

（浜松市の多文化共生」をテーマに、市長への手紙を広聴広報課まで郵便、ファックス、電子メールでお願いします。字数は500字程度。匿名でも構いません。住所などは裏表紙に記載。締め切りは平成23年2月28日）

載。締め切りは平成23年2月28日）

※当コーナーへ寄せられた主なお手紙は次回の誌面で紹介させていただきます。なお、個別に回答はいたしません。

特集タイトルの由来

時代は変わる

The Times They Are A-Changin'

(ボブ・ディランが1964年に発表した楽曲)

現代にも通じる 社会へのメッセージ

米国のカリスマ的フォークシンガー、ボブ・ディランが作詞・作曲・演奏・歌唱した名曲。詞の内容の一部は「現在はやがて過去になり、今一番のものはやがて最後になる。時代は変わっているのだから」というものです。当時の社会に向けて発せられた、この強烈なメッセージは現代にもそのまま通じるのではないのでしょうか。